

秋の彼岸によせて

平成二十一年九月 大乘寺 住職 岡 光俊

二十歳前後のかたに、将来どのような人になりたいですかと問いかけたところ、今まで考えたこともないと答えるかたから、夢を語り始めるかた、自分の人生を左右する重大な問題と真剣に模索されているかた等、一人一人まったく反応が違います。人として近い将来、また晩年にありたい自分に対して、これ程の考えの違いが何故起こるのでしょう。

一人一人生まれてからの人生体験を聞いていくと、最も影響力があるのはご両親の姿でした。毎日喧嘩する親、無視し合う親、悪口をいい合う親、子供になにもさせない親、子供のお金を使い込む親、上からものをいう親、感情で接する親、これらの親に育てられた子供への影響は計り知れないものがあります。考えかただけではなく、性格や精神の安定度、思慮の深さ、物事への関心度やクリエイティブな広さや深さまで違ってきます。深く人生を見詰められる人か、深さが解らない人かも親との関係が大きく影響しています。

苦も、そのかたの成長のために活きる苦と、すべてを不幸に導く苦があります。この世での体験は一人一人、毎日皆違うものです。世界を飛び回っているかたから、一日中家においてテレビを見たり愚痴をいって過ごすかたまで、人の数だけの異なった体験をしています。これ程無限の数の項目を体験できるように、いったいどなたがプログラムして下さっているのでしょうか。

自分が考えてしているって：果たしてそうでしょうか。ご自身が考えてしていることなら、思い通りの夢のような人生を過ごされているということですよ。

人間社会で生きて行くなかで、一人一人極端に考えかたが違い、理解できない程の隔たりがあることを知ることは重要です。人は皆、思いや感じかた、好みが極端に違うことを、認識できるかたとそうでないかたとは人間関係でトラブルの数が大きく違います。

その上、人の考えかたを変えることはこの世のなによりも困難であることを認識できている人は、ストレスが大きく減少します。変えることが不可能と知れば認めていくしかないことに気づけるからです。それ程、人の考えかたは変えられるように見えていて、大盤石のようにまったく動かないものです。

家庭や職場、地域の人間関係のなかで他人は変えにくいものであると認識できたとき、同じ目線で自分を見、自分も変えにくい人間の一人であることに深く気づけるでしょうか。誰に対しても頑固に自分の考えを押しつけている自分、間違っているか正しいかも考えず、人の意見を聞かない自分、人に意見をいわさない自分、自分を変えざる気など微塵もない自分に気づけるでしょうか。

人は体験していないことは理解できません。それが幼いときであつても八十才を数えていても。同じ体験をしたからといって同じように感じることもありません。体験が気づきを増し、気づきが深さを増していくものです。

人生は人の営みだからと、人は人以外を認めようとしなやかたもおられます。しかし地球規模で見たととき、植物を含めこの地球上ではすべての生き物が連鎖しています。この連鎖は小さなミツバチが減少しても植物にまたそのあとの連鎖に大きな影響を及ぼす問題が指摘されています。この連鎖は人間が作り出したものでしょうか。

先程の人の体験もそうですが、経文を開くと地球を越えた宇宙の営みと心の世界の繋がりが説かれています。我々は生活の周りに自然をなくしていったように、心のなかに自然に対する感謝や恐れをなくし、ご先祖さまや神々の存在をも忘れてしまうほど、忙しさのあまり心を亡ぼす姿となってしまうのではないのでしょうか。その結果、すべて佛さまの智慧を頂いての生きざまであることを認められなくなつたのでしょうか。自分の力のみで生きてるといい張る人間のあまりに多いことか、人はなんと偉く愚かな存在となつてしまつたことでしょうか。このような人に、佛さまは為す術をお持ちではありません。

神佛はどのようななかたも差別なく救われるとお思いのかた、それは、自分のことだけしか考えられない無知な部類の人間の妄想です。喉が渴いている人は水を渴望し飲みますが、渴きのない人は望みません。救いも相手が本当に望まなければ、神佛も救えないことを知ることです。周りを理解しようとしめない人が、周りから理解されることはありません。ほかの人々に幸せになる手助けをしない人が、人から手助けをしてもらえることはありません。

ご先祖さまからの教え伝えは、人の習慣や慣習の中に息づき、家風となって蓄積され智恵となって引き継がれていきます。綿々と引き継がれてきた智恵の中には自然との関わりかた、神々やご先祖さまの霊とのお世話やお祭りの作法、祈願の教えや神業のいい伝えなど、それらご先祖さまの教え伝えを真剣に身につけようとせず、今皆さまはなにを求めなにを第一と考え、どこを目指して歩もうとされているのでしょうか。

幸運の神から見放されたと思っっているかた、幸運の神であるあなたの親、ご先祖さまを見放したのは、あなたのほうではないでしょうか。

秋の彼岸、ご自身をしみじみ振り返り、これから先、なにをすることがこの世に産んで頂いたかたへの恩返しでしょう。遠いご先祖さまから引き継がれてきた尊い命、ご先祖さまに思いを馳せおのれずに己の命を活かせる答えがあるはずはないでしょう。